

## 第3回 病名を付けて欲しい症候群

信じられない話だが、世の中には病気になりたいと望んでいる人がいる。本人はそれに気付いてはおらず、ひたすら辛い症状を産む“病気”を探す旅に出ているのだ。

人は心の奥底では誰かの役に立ちたいと考えているから、自分の存在価値や貢献が認められると幸福を感じる。一方で人間関係が慣れ合いになると、習慣的に成される善なる行為は、いつの間にか「当たり前」とみなされていく。典型的なのが、子育て世代の夫婦関係。夫は家族の為に仕事を生活の中心に据え、出世のため限界に挑戦する。妻は子育てに追われ、心も身体もフル稼働となり、仕事量は昼夜問わず半端ない。そんな状況下で、信じられないような症候群が妻を襲うことがある。

頸や肩凝りからくる頭痛や、授乳や夜泣きによる睡眠不足からの体調不良など、理由が明白な症状も多いが、原因の分からない頭痛や動悸、吐き気、胃痛、腹痛、身体のおちこちの痛みで悩まされている場合——。複数の病院を

受診しても異常が見つからず、それでも症状が続く時に僕は『病名を付けて欲しい症候群』の可能性を考える。

何か病名が付くと、それは“錦の御旗”となり、家事が完璧には出来ない理由が付く。そして自分の存在感を、貢献度を、苦勞の軌跡を家族にアピール出来る。それを本人の潜在意識が望んでいる限り、症状はいつまでも続いてしまう。それを見抜き、解決策を伝授するだけで症状が消失したケースは多い。僕は病気の妻をサポートして娘を育ててきたので、ママの苦勞がよく分かる。パパの“男はつらいよ”も、もちろん良く分かる。だからどちらの味方でもある。僕からの処方箋は「ありがとう」の一言。心を込めて、先に言った者勝ちなのだ。

### 医学博士 木村謙介

北海道大学医学部卒。慶應義塾大学医学部循環器内科専任講師などを歴任。  
 米カリフォルニア大学サンディエゴ校医学部留學、最先端の基礎医学と豊富な臨床経験を持つ。「大きな病気を発症する前にその芽を摘み取る方が医療レベルは高いはず」の信念で2012年、きむら内科クリニックを開設。



**きむら内科クリニック** TEL 044(981)6617

麻生区片平5-24-15 **きむら内科クリニック** 麻生区 **検索**